



【英語教育】教育のユニバーサルデザイン化を切に願う・・・

先週に引き続き、
ディスレクシア<読み書き困難>について
もう少し書かせてください。

おうち英語をやってきたメリットは
挙げればキリがないくらいありますが
もし一つだけどうしても選べと言われたら
私は迷いなく
「息子の読み書き困難に早く気付けた」
そして
「おうち英語でのインプットが
読み書き困難の克服の手助けになった」
ことを挙げると思います。

もしおうち英語をやっていなければ
私はきっと息子が中学に入るまで
読み書き困難を抱えていることに気付かず、
そして中学に入ってからずっと
「この子は努力が足りない子。
勉強しないからできないんだ・・・」と匙を投げていたと思います。

そんな視点からも
おうち英語に猛烈に感謝している私。

もし我が家の息子がかなりのレアケースであれば
こんなにしつこくは書かないのですが
実はこのディスレクシア、日本語ではあまり問題にならず
英語で著しく表面化する息子のようなケースは
想像するより実はずっと多いと言われているのです。

ということで、
今週もぜひお付き合いください。

小学校低学年から漢字の部首と旁を逆に書いたり、
熟語を上下逆に書いてしまったりと、
よく書き間違いをしていた息子。

注意力のないそそっかしい子だとずっと思ってきました。

漢字テストで✖をもらう度にため息とともに
「なんでちゃんと読み返したり注意して書けないかなあ!」
と小言を息子に言ってしまっていました。

のんびりとしたおうち英語の中で、
嫌がる息子に読むことを強制せず取り組んできたものの、
しびれを切らして息子が小5の時に英検を受検させようと
英語を読ませようとしたところ、1語も読めなかった息子……。

そこではじめてディスレクシアという症例を知りました。

(詳しい顛末は4月19日おうち英語 Insight をお読みください。)

末端とは言え、英
語教育に長年関わってきたにもかかわらず、
学習障害的な知識は一切持ち合わせておらず、
できないことは本人の努力と根性と注意力が足りない
とってしまっていた私……。

本当に申し訳ないことをしてきたなあと
懺悔の気持ちでいっぱいになりました。

息子に読み書きに程度としては軽度とは言え、
学習障害となるものがあると知った時は、
ショック・ショック・ショック、そして絶望、、
しか感じられませんでした。

しかし、発覚から3年経ち、
息子と息子が抱える困難を緩和するために
色々と試行錯誤に取り組んできた過程の中で、

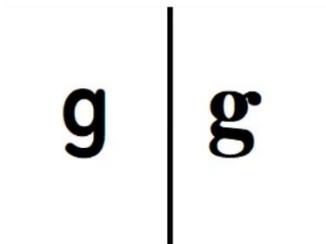
その絶望は感謝の気持ちに変わりました。

「私の盲を開いてくれてありがとう!」
とただただ感謝の思いしかありません。

3年前と今では見える景色がまるで違うと思っています。

先日行われた大学入試共通テストを見ても、
使用されているフォントが気になったりします。

例えば、



画像 1

このようにフォントによって全く文字の形が異なることがありますが、
ディスレクシアの問題を抱える子には違う文字に見えてしまいます。

画像左は【ユニバーサルデザイン】のフォントで
実際に書く時の文字の形とほぼ同じ書体となっていますが、
右のフォントは実際に書く時の文字の形と大きく異なっています。

しかし、読みに問題を抱えない人にとっては
この違いはまったく気にならないものです。

指摘されなければフォントの違いすら
気付かない人も多いのではないのでしょうか。

私もディスレクシアなど LD のことを学ぶまでは、
そのような点には全くの無配慮で、
学校で使用するプリント、考査などを作成するとき、

「素敵に見えるフォント」とか「(自分が)読みやすい(と思う)フォント」という基準でフォントをかなり適当な理由で選んでしまっていました。。。

今、LD に理解がある方の働きかけにより
少しずつフォントにも配慮がされるようにはなっています。
小学校、中学校の教科書、教材には先にご紹介した
【UD(ユニバーサルデザイン)フォント】が使われるようになってきており、
教育的にも配慮されてきています。
※ちなみにこの Insight の記事のフォントも UD です。

しかし、不思議と高校になると
それらの配慮が感じられなくなるのですよね。

私が昔勤務校で使用していた問題集、参考書、プリントなどを見ても
フォントは一律ではなく、
ディスレクシアなど読みの問題を抱える子には
読みづらであろう書体で編集されているものがたくさんあります。

先日の大学入試共通テストの英語の問題に使われていたフォントも
先に画像で示した【右側の書体】が使われており、
ユニバーサル的な配慮はないなあ・・・とってしまいました。

このような現状を見ると、
LD の問題は子どもの成長と共に解消すると捉えられているのかなあ・・・
とってしまいます。

息子を見ていると
「問題は消えてなくなるけれど、必死で適応しようと努力している」
と感じます。

世の中の規格に自分を合わせるために
人一倍の努力をしているのだなあ。

でもその努力はやって当たり前の努力で、
通常は努力しているとも認められず、
逆に「同じようなミスばかりするね。もっと注意して。」とか
「ちゃんと読んでる？読み飛ばしが多からしっかり読みなさい。」
とさらなる努力を求められます。

LD(学習障害)という、
「障害」という言葉から「全く読めない」「全く書けない」というような
ヘビーな状況を想像しがちですが、
子どもが抱える困難さの程度は人それぞれです。

わが家の息子などは、
全く読んだり書いたりできないわけではなく、
大局的に解釈をしてしまうことによる読み飛ばし、思い込みであるとか、
漢字の部首・語順の逆転、英単語の読み書きに時間を要するというもので、
なかなか人には気付かれない程度のもです。

学校のテストでも学校の先生が
学習障害を疑うような点数ではないため、
学校の先生に息子が抱える困難に気付いている先生は
いらっしやらないと思います。

懇談会の時に担任の先生に口頭で
「読み書きに苦勞しているところがあります」
と伝えてはいますが、
それ以上の申請などは提出していませんので、
今のところ教育的配慮は何も受けていません。

息子のように軽微と思われる症例の場合は
特に教育的配慮を求めることは難しいと思われます。。。

学校でタブレットの使用を認めてもらったり、
テストにおける読み上げを認めてもらうのはなかなか困難な状況で、
結局は適応しようと本人が人一倍努力しなければならないのが現状です。

統計的にディスレクシアの出現率は、
欧米圏で12%前後とされていますが、
日本では「ディスレクシア」と診断されている子どもは4.5%前後だそうです。

しかし、この数字から
「ああ、日本人にはレアケースなのね」
と思うことはできないと思っています。

ディスレクシアなどの LD は
民族的に大きな差がみられるものではなく、
使用する言語の特徴によって表面化しやすいかどうかの問題のため、
日本で発覚する割合が少ないのは、
日本語は読みと書きが一致させやすい言語であるために
ディスレクシアが表面化しにくいだけだと思います。

日本語ではなんとか対応できていた子も
英語が教科として導入されてくることで、
一気に読み書きの問題が表面化したりする子も多いのではないかと推察されますが、
多感な年頃で困難を人に相談しないまま
自分のことをバカだと思い込んでしまったり、
LD に関する認知度が低いために周囲も問題に気付いてあげることができず、
同じように「バカなんだね」とか「そそっかしいね」、「努力が足りないね」
という反応をしてしまったりしているケースも相当多いのではないかと思います。

そして、人一倍陰で努力していることに気付かれず、
場合によっては本人すら気付かずに自分を
世の尺度に合わせようと頑張っている子がいるんだろうなあと思うと、
あらゆる世代の教育がもっとユニバーサルデザイン化されて欲しいと
願わずにはられないのです。

Jolly Phonics により読み書き困難をかなり克服してきた息子ですが、
それでもやはり読みのスピードや読んだ内容を覚える
ワーキングメモリー的なところはまだまだ課題があると感じています。

でも本人はその課題をなんとか乗り越えようと頑張っており。

「なんで自分はできないんだ!」とイラつくことはあるようですが、
自分に与えられたカードでなんとかしようと工夫もしているようです。

こういう努力・工夫をしているのはきっとウチの息子だけではないと思います。

世の中にたくさんいるはず。

そうして努力している子たちから
LD に無理解・無配慮な者が無意識的に作ってしまう
余計な壁を世の中から取り除いていけるよう、

多くの人に LD やディスレクシアの問題を知って欲しいと切に思います。

息子が開いてくれた私の盲。

見えてきた世界で私も少しでも役に立てるよう心がけていきたいと思い、
今日の記事も書いてみました(^^)

2021 年 1 月 20 日投稿 note 一部加筆